

## 第2回 第2次静岡市総合計画懇話会会議録

- 1 開催日時 平成21年6月24日（水） 午後2時00分～午後3時30分
- 2 開催場所 静岡市役所新館8階 市長公室
- 3 出席者 〈出席委員〉  
佐藤会長 佐竹副会長 松浦委員代理（赤堀） 杉山委員代理（五十嵐）  
榎本委員 佐藤（京）委員 河合委員 小野寺委員代理（服部）  
上利委員 澤野委員 須藤委員 岩邊委員  
〈欠席委員〉  
望月委員 尾崎委員 市川委員
- 4 傍聴者 4名
- 5 会議内容

○経営企画部長 皆様、本日は御多忙の折御出席いただき、まことにありがとうございます。

ただいまから、第2回第2次静岡市総合計画懇話会を開催いたします。

それでは開会に当たり、市長からごあいさつ申し上げます。

○市長 今回2回目になりますけれども御参集いただきましてありがとうございます。

前回は人口フレームとしての将来推計人口や本市の現況と課題、6つの分野の政策体系などについて皆様に御説明をさしていただいたところであります。

今回は第2次総合計画のテーマと、主要な柱となる戦略プロジェクトの案について御協議をいただくということになります。これらは本日も御出席いただいている専門委員の先生方や、公募の市民委員30名の皆様の熱心な議論により、基本構想における目標都市像であります、「活発に交流し価値を創り合う自立都市」を実現するために、社会経済の潮流の変化や、本市の持つ基礎的条件に加え、市民1万人アンケートなど市民の声を総合的に勘案して作成をしていただいたものであります。各委員におかれましてはどうか多方面からの御検討を賜りますように、よろしく願いいたします。

なお来月5日からは、市内6カ所においてタウンミーティングも開催いたしまして、直接市民の皆さんの意見をお聞きをするという、そういう機会も設けてございます。皆様方におかれましてもお近くの会場に御出席いただければ幸いです。よろしく願いします。

○経営企画部長 本日は望月委員、尾崎委員、市川委員の3名が御欠席でございます。また河合委

員さんは若干遅れてお見えになるとのことでございます。また、松浦委員の代理として静岡商工会議所専務理事の赤堀様、杉山委員の代理として清水商工会議所専務理事の五十嵐様が、また小野寺委員の代理として葵区区民懇話会の服部様に御出席をいただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

また本日は、原案検討会議において公募市民の皆さんとともに6分野に分かれて活発な御議論をいただいております専門委員6名の中から、総論分野の日詰委員、健康・福祉分野の松平委員、生活環境分野の水谷委員、都市基盤分野の川口委員の4名が出席しております。よろしくお願いいたします。

それではここからの進行は佐藤会長にお願いいたします。よろしくお願いいたします。

○佐藤会長 皆さんこんにちは。当懇話会の会長を務めさせていただいております佐藤でございます。

本日は大変蒸し暑い中、委員の皆さんには御参集いただき、まことにありがとうございました。5月28日に行いました第1回のこの懇話会では、ただいまの市長の御挨拶にもありましたが、第2次総合計画の基本方針と、それを支えている政策体系の全体について説明をいただき、それをめぐって皆さんから活発な御議論をいただいたところでございます。早速議事に入らせていただきます。本日はそれを受けて第2次総合計画のテーマと戦略プロジェクトについて事務局から報告いただいたあと、皆さんの市民目線からの忌憚のない御発言をいただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いしたいと思います。

それじゃ、事務局よろしくお願い致します。

○経営企画課長 資料1を御覧ください。資料1は専門委員を代表しまして総論分野の日詰委員から説明をお願いいたします。日詰委員、よろしくお願いいたします。

○日詰委員 それでは私のほうから資料1に基づきまして、内容について御説明をさせていただきます。

御存じのように、静岡市の総合計画は平成17年度を初年度にしまして、それから平成27年までの10年間の計画ということになっております。基本構想から派生されてくるところの大きなテーマといたしまして、市長の話にもございましたように、「活発に交流し価値を創り合う自立都市」ということございまして、その前期計画が1次総ということで、これが17年度から21年度までということになっております。その当時制定されたときに比べますと、いろいろな時代の潮流というのも変わってきておりまして、そのあたりも斟酌した上で2次総の検討に入っております。

1次総の大きなポイントといいますのは、資料1の左下のところがございますけれども、指定

都市の基盤づくりということで、特に社会資本整備とか、あるいはさまざまな市民生活の利便性の向上と、そういったところに焦点が当てられて整備が行われてまいりました。加えて合併後の一体化したまちづくりを行うということもございまして、特に重点的に行われましたのが、小中学校の耐震化の推進。あるいはごみ処理に向けての対応策。加えていろいろな施設の改築事業等々が行われてまいりました。

このような1次総の成果に基づきまして、今私どもは2次総の検討をしておりますけれども、その中で特に時代の流れというもので左上のところにございますような9つの側面から、今我々の社会が抱えている課題、そしてそれを解決していくに向けての計画の策定というようなプロセスで検討を行っております。

1つ目の、人口減少社会への転換ということでございましてけれども、いわゆる生産年齢人口が減少してきている。一方高齢人口が増加してきているというような問題が非常に深刻化してきているということでございます。

それから2つ目は社会の多様性への対応ということで、特に国籍、あるいは障害を持った方々、あるいは性別にかかわらず幸せな生活を送るためにはどうすればいいのかというような問題がここにございます。

それから3つ目は地方分権改革が一層進展してまいりまして、今第2期地方分権改革の時代に入りましたし、加えていよいよ道州制といったものも視野に入りかけているというような状況にございます。

そして4つ目は、6月4日に富士山静岡空港も開港し、いよいよアジアと日本あるいは静岡が大変近くなってきている。そういう意味ではこれまでとは違った視野で交流の視点というものを考えていかなければならない時代に入ってきたということでございます。

それから5つ目は低炭素革命の推進ということで、いわゆる地球温暖化への対応をどのように進めていったらいいのかということも喫緊の課題でございまして。

そして6つ目は、昨年9月以降世界的な規模で起こった経済危機、こういったものからどのように脱出していけばいいのかという、そういう大きな課題も私どもにはあるということでございます。

加えて7番目は、安全・安心社会への希求ということで、これもまだ完全に解決されているわけではございませんけれども、新型インフルエンザに対する対応の問題、あるいは食品偽装の問題、さらにはこの時期になりますと天候も非常に不安定でありまして、水害等の発生も起こるといったことに、どのように安全・安心の社会を築いていけばいいのかという課題がございまして。

そして8つ目は情報通信技術の飛躍的な発展ということで、このようなものを使いこなすことによって、私たちの生活をどのように豊かにすることができるのかといったこともございます。

そして9つ目は市民意識の変化ということで、これまでのような経済成長一点張りの生き方ということではなくて、人間らしいゆとりや安らぎ、心の豊かさ、そういうものを求める意識の変化といったものも見据えていかなければならないだろうと思います。加えて静岡市の場合は中山間地を抱えているということでもございますので、この問題への対応というものも求められているということでございます。

以上申し上げたような10ほどの課題に対してどのような対応をしていけばいいのかということが今回の2次総の検討課題というふうに感じております。

真ん中のところに第2次総合計画がございまして、その下に赤い字で「世界に輝く『静岡』の創造」というのがございます。私ども専門委員、それからあと市民公募の皆様と一緒に検討してきたんですが、こういった諸課題にこれから対応していくに当たって、1つキーワードになるものがあるんじゃないか、それが実は「世界」という言葉ではないかということで検討いたしました。そして今回の第2次総合計画のサブタイトルとしましては、「世界に輝く『静岡』の創造」という形にしたいということでございます。

その世界に輝く『静岡』の創造ということでございますけれども、やはり静岡は独自の優位性を持っている。他の周辺の市町に比べて非常に優位性を持った点があるということで、そこに幾つかまとめてございます。それはやはり指定都市としての基盤が確立しつつあり、加えて自治基本条例であるとか市民参画の推進に関する条例とか、そういうものが整備されまして、市民自治力が向上しつつあるという点が優位性の1つでございます。

加えて日本列島の中央に位置するポジションを静岡市が占めている。いわば日本の中央にある静岡から日本を見通すことができるというようなポジションでございます。

3つ目は台頭著しいアジア諸国との連携が深まりつつある。特に静岡市の場合には多言語の都市でもあろうかというふうに思います。

そして4つ目が、世界に誇る豊かな自然環境も備わっている。そして非常に長い歴史と、そしてその中で培われた文化というものが息づいている。こういったものも静岡の優位性として考えることができるだろうと思います。

さらに世界への扉を開く富士山静岡空港も開港いたしまして、これをいかに使いこなしていいのか。あるいはこれを1つのきっかけにして、静岡をより一層発展させていくというような方向性が見通せる時代になってきているということでございます。そして中核国際港湾として日本経

済の発展に寄与する清水港の機能をいかに向上できるかということも見通せるわけでございます。

そして、あといわゆる高速交通体系ということ言えば、新東名の高速道路があと数年のうちには完成の見込みであるということですし、それからこの2次総の中で実現するかどうかわかりませんが、中部横断自動車道が整備されてきているということで、高速交通体系がだいぶ整ってきているというような優位性が静岡市にはあるということでございます。

そういう状況を踏まえて、これから来年以降5年間を見通すときに、どういったところに戦略を持って静岡を豊かな町にしていったらいいのかといったところで13のポイントを私どもは検討いたしました。

1つ目が、「市民が誇れる美しいまちプロジェクト」ということでございます。そこにもございますように市民、団体、市の協働によってごみ減量であるとか、清流の保全、緑化、文化的景観の保全と形成などを通して、市民のだれもが美しいまちをつくるということでございます。

それから2つ目の戦略は「静岡まちぐるみ協働プロジェクト」ということでございます。これに関しましては先ほども御説明いたしましたように、市民参画とかあるいは市民活動に関する条例も整ってきておまして、まさに協働、いろいろな主体が連携しながら一つのまちづくりを行っていくという制度が出来上がってきておりますので、いかにその担い手をこれから充実し、増やしていけばいいのかといったところに今度はとらえられるだろうと思います。そうすることによって今抱えているさまざまな諸課題の解決方法を皆で見出していくという方向性に進むと思います。

それから3つ目は「魅力あふれる中山間地域活性化プロジェクト」ということで、特に本市は都市部と農山村部が共生している新しいタイプの指定都市であります。そういうことからしますと、静岡に続いて新潟市とか、浜松市とかいろいろな都市が指定都市となっておりますけども、そういった都市におけるリーディング都市としての役割を果たすことができるだろうと思います。特にそういう中で、おいしい水であるとか、豊かな緑ですね、こういったものを守り育てて、そしてさらに中山間地域の魅力を生かした活性化を目指していくということが望まれております。加えて転住や移住の促進あるいは支援を行っていくこともこの中には入ってくるかと思っております。

4つ目が「低炭素都市創造プロジェクト」ということでございます。特に地球温暖化対策には率先して取り組む指定都市として名乗りを上げておりますし、またCO<sub>2</sub>そのものを地産地消するというモデルを構築するということでの取り組みを行っております。さらには新エネルギー対策としての太陽光発電、さらに公共交通、自転車の利用促進等々の問題も検討の中に入ってくるだろうと思います。

それから5つ目が「地方分権推進プロジェクト」ということで、今、地方分権を進めるに当たりましては、地方政府という言葉が盛んに言われるようになりました。基本的には国と対等な政府をつくっていくということで、自治行政、あるいは自治財政、あるいは自治立法権、こういった3権の充実強化を図っていくというプロジェクト、これが5つ目でございます。

そして6つ目が「シティプロモーション推進プロジェクト」ということでございまして、本市が持っている優れた、そして豊かな自然、それには長い歴史、そして多彩な文化、こういったものを国の内外に積極的にアピールし、そこから新しい価値を生み出していくという、そういう方向性を目指すプロジェクトであります。

そして7つ目が「世界に向けた観光交流推進プロジェクト」ということで、富士山静岡空港を活用しまして、特にアジア諸国を中心にしまして世界に向けた情報の受発信、あるいは観光交流の促進を図るというプロジェクトであります。

そして8つ目が「地域産業ブランディングプロジェクト」ということで、特に静岡の中で培われた、多彩でしかも個性豊かな地域産業、あるいは地域資源のブランド化を図る。そしてさらにそういったものの高付加価値を推進するというプロジェクトでございます。

そして9つ目が「市民の安全・安心確保プロジェクト」ということで、さまざまな市民の不安、そういったものを解消しまして、市民の皆様が一人一人豊かで、そして安心し、また安全な市民生活を送ることができるようにするというプロジェクトでございます。

10番目が「ネットワークシティプロジェクト」ということで、これは静岡市内の中に都心、副都心、さらには安倍川駅周辺とか、駿河区役所あるいは草薙駅周辺を地域拠点として、さらに生活拠点であるところの用宗、興津、由比、蒲原、新蒲原、そういったところをネットワーク化していこうとするプロジェクトでございます。

そして11番目は「未来を拓く子どもわくわくプロジェクト」ということで、地域を挙げて子育て支援を行っていく仕組みをいかにつくればいいのかといったことを検討していくものでございます。その中には放課後児童クラブの設置であるとか、さらには青少年の非行防止をいかに進めていくのかといったことも含まれてまいります。

そして12番目が「参加と自立のまちプロジェクト」ということで、高齢者、障害者、そして女性、外国人といったさまざまな人々の社会参加、そういうものを進めまして、一人一人の方々が自立して豊かな生活を行っていくまちを目指す。そういうプロジェクトでございます。この中には過疎地に住む方々であるとか、あるいはハンディを持った方々の有償運送の問題、あるいはスポーツ教室を進めている方々がそれぞれの立場において豊かに暮らせるようなまち、それを

目指すということでございます。

そして最後13番目でございますけれども「健康長寿いきいきプロジェクト」ということで、市民、団体、市が一体となって健康長寿のための活動を進めていくというものでございます。急病センターであるとか心の健康センターを整備したり、静岡市独自のS型デイサービスをより一層進めることによって、健康で長生きのできるまちを目指すということでございます。

以上13のプロジェクトを通しましてこの「活発に交流し価値を創り合う自立都市を目指す」ということでございます。なお、1次総のときには12のプロジェクトだったんですけれども、1つ増やしまして13ということにさせていただいております。以上でございます。

○佐藤会長 どうもありがとうございました。

早速委員の皆さんの御質問、御意見を伺いますけれども、恐縮が本日は3時半ころまでにこの会議を終わらしていただきたいと思っておりますので、御協力のほどよろしく申し上げます。

皆さんからお出しいただいた御質問や御意見に対して、きょうは4名の専門委員の方がご出席ですので、それぞれ関係する事項で委員の方々からお話をいただくということにいたします。皆さんの忌憚のない御意見をお願いしたいと思っております。いかがでしょうか。

最初にひとつ私の方から、一番最後のところで、第1次総ではプロジェクト12でしたが、今回1つ増えたのは、どういう意図・理由でしょうか。

○日詰委員 ちょっと私の言葉に語弊がありましたけれども、つけ加わったということではなくて、全部、例えば左にある課題を見通したときに解決していかなければならない課題が幾つかあるわけですが、それぞれ今回戦略プロジェクトとして掲げるときに、13ぐらい項目がどうしても必要だろうということで、前回12だったけれども今回1つ取り組むべき次世代プロジェクトが1つ増えたということで、1次総からそのままスライドしてきてるわけではございません。特に取り組んでいこうということが1つ増えたということでございます。

○佐藤会長 ということですのでいかがでしょう。どうぞ。

○杉山委員代理（五十嵐） 今先生の御説明の中で、第1次総の真ん中のグリーンのやつを世界に輝く『静岡』の創造ということで、ある意味じゃ基本計画のためのサブタイトルとしてのテーマであろうというふうなことなんですが、世界に輝くという割に項目が世界じゃないじゃないのというふうな感じが私はします。

それからもうちょっと静岡の良さというか、質の高さというか、それを向上させて美につながるみたいな、何かそういう世界と通じりゃいいのかみたいな、その辺を感じます。

それから変な話で、具体的なことはどうでもいいんですが、清水港の第2次のコンテナヤード

が整備されるのが28年だと。それから中部横断29年だということになると、この計画年次内に合っていないということがもちろんあるわけですね。だからちょっと世界に輝くというのが静岡がどうなのかなという感じが、これは個人的ですがあります。

それから右の戦略プロジェクト案でございますが、この中には13、数が多けりゃいいとい問題じゃなくて、この後ろに部門計画がすべて360度計画が控えてるわけですね。その中からある程度この5年間でやる1つの強調したいというようなことでプロジェクトとして挙がってると思うんですが、あまりにも強さ、弱さだとか、広さとか狭さとかいう、ちょっとその強弱がばらつきがあり過ぎるんじゃないかなという感じがします。

例えば2番の静岡まちぐるみ協働プロジェクトと、参加と自立のまちプロジェクト、これ似てるんじゃないのみたいな、大ざっぱに言うと、今聞いたばかりですから。それから例えば魅力あふれる3番と、低炭素都市みたいなのが似てるだとか、それから市民の安心・安全と例えば健康長寿のプロジェクトというのは似てるだとかというのがありまして、特にこれから非常にバックグラウンドが右肩下がりでございますので、こういっばい出さないで、バックに同一計画が360度ございますので、その中でこの5年間に静岡は力を入れてやってくんだと。やっぱり項目数が多いということになるとまた総花的になっちゃうみたいな。

例えばここでこうやってきますと、私どもは経済でございますので、経済から言いますと8番の地域産業ブランディングプロジェクトと、経済ってこんなもんかやというふうな、何か複数のセクションから見るとこれしかないというような、何か、これだけ13もあるといろいろな分野の方々の、うちの部分が少ないじゃないか、多いじゃないかみたいな、そういう感じにとられるもんですから、もうちょっと広域的、総合的なプロジェクトみたいな、例えば1番が重要であって、4番が重要であったり、6番が重要であったり、9番、13番を足したようなのが重要であったりというような、何かその辺の、かえって本数が前回は12で今回は13だということじゃなくて、もうちょっと絞り込んで、若干の枝を出してくというほうがいいのか。何か似てるのが多過ぎないかなと、これは感想ですが、そんなところです。以上です。

○佐藤会長 五十嵐さん、どうもありがとうございました。今貴重な御意見いただいたと思うんですが、何か日詰さんのほうから。

○日詰委員 最初のサブテーマの「世界」ということが、例えば市の優位性とかあるいは戦略プロジェクト等々を勘案したときに、ちょっと大上段に振りかざし過ぎてるんじゃないかということかと思うんですけれども、確かにおっしゃるとおりのところがあるかもしれません。これ実は私たちも非常に長い間議論した点でありまして、こういう状況、要するにこういう枠組みの中で世

界というキーワードを出すのがいいのかどうかということは、これは専門委員の間でも、それから市の公募委員の方々との間でも一応議論し合ったところなんですけれども、ただ、そこで了解できたことはどういうことかといいますと、やはりいろんな意味で今世界を視野に向けて静岡が進むべき、今段階あるいは時期に来ていると。加えて、こういった計画の中でつくり上げてきたさまざまな成果とか諸価値というものを世界にこれから発信していく。そういう心意気でこの世界というものを掲げてみたらどうだろうかということで、今あるものがすべて世界に通用するというようなとらえ方ではなくて、これから静岡の中でさまざまな活動をし、つくり上げていくものが、実は世界を見据えたりとか、あるいはそこでつくり上げたものが世界で通用していくものにしていこうという、そういう心意気の決意表明だというふうに受け止めていただけると大変ありがたいなというように思うんですけれども。そんなようなことで「世界」というものをこの中に入れてみたということでもあります。

それから政策プロジェクト、確かに13ということが多いんですけれども、今五十嵐さんがおっしゃいましたように、束ねるということでしょうかね、もう少し広域的・総合的なプロジェクトとしてまとめられるんじゃないかという御意見、傾聴に値するところがあるかというふうに思いますので、もう一度ちょっと皆さんと検討をしてみたいというふうに思います。

○佐藤会長 本数の問題では、私も五十嵐さんにやや近い感想を持っていますので、ぜひ少し精査していただくよう、よろしくお願ひしたいと思います。

○杉山委員代理（五十嵐） 私ども決して大学の先生に挑むつもりはございませんので。（笑）ちょっと世界に輝くという部分なんです、それと先ほど先生から詳しく御説明いただいた時代の潮流ということになると、今のこの時代に世界グローバルというのも一番ベーシックな問題だと思うんですね。ここであえて静岡が世界にということを入れる自体が何かいかなものかと、そんな感じがちょっとしました。

○佐藤会長 あといかがでしょうか。いろんな観点から御発言いただきたいと思いますが。

○佐竹委員 佐竹でございます。

時代の潮流もそうですが、現在の例えば企業が抱えている課題といいますと、昨年9月から始まったリーマンショックでいろんな経営体、企業業績が悪化してる。これからいろんな静岡市の総合企画に当たって、税収といいますか財源といいますか、そういうのをどうしていくんだということだと思いますし、富士山静岡空港ができて企業の誘致の問題だとかそういうものはもうちょっと入れ込んでいったほうがいいのかと思います。それが地域産業のブランディング・プロジェクトとかそんなことにももっと入っていくように思っています。そうすることによって例え

ば人口が増えたり、まちが活性化したり、そんなようにつながってくんじゃないかなと思います。  
その辺もまた御検討いただければと思います。

○日詰委員 わかりました。今佐竹さん御指摘の部分というのは、例えばこれも6とか8、五十嵐さんにすれば、もっとまとめられるんじゃないかというお話かと思うんですけども、そういったいろんな活性化に向けての戦略でもあるわけで、そういったものを組み合わせながら財源の向上に結びつけていくということはあるかと思いますが、また特に8番目をもう少し深く検討することによって、企業の誘致というものも起こり得るのではないかなと思います。いずれにしても御意見は貴重な御意見ですので、参考にさせていただきたいなと思います。

○河合委員 遅れてきて申しわけありません。私、社会福祉協議会の河合でございますけど、私のほうの分野からすると、福祉というようなものがどこに入るのかなというちょっと気がするんですけども、参加と自立のまちづくり、あるいは健康長寿というところに入るのかなと思うんですが、福祉というものはそれぞれが自立してやってけるという、それがある意味で望ましいことでもありますけれど、やはり自立できない人がいるわけで、そういう人たちに対する配慮というようなことをどういったところで取り上げられるのかなということがちょっと12、13のほかにもどういうふうになるのか、ちょっと見えてこないなという感じがします。

○佐藤会長 松平さん、いかがですか。

○松平委員 健康・福祉分野の松平です。

11、12、13が確かに、さっき分野の多い、少ないみたいなのがあったんですけど、結構私たちは健康・福祉は多いという、多分ちょっと批判されてきたんじゃないかなと思うところなんですけれども、11、12、13と、あと9ですね。9の安全・安心というところが私どもが特にプロジェクトの中で入れ込んでいってほしいということで入れたところです。

9は言葉は変わってないんですけども、インフルエンザの問題ですとか東海地震の問題とかということもあるんですけど、だれもが安心して安全で暮らしていけるというセーフティネットの問題もここで討論してもらえればということをお願いしていたものです。11番は子どもの問題ですね。子どもを産み育てるといふことの問題。それと12番の自立できない方々への支援ということも、自立というのがいわゆるここで自分で立つという自立だけではなくて、選択し、自分の生きたい生きざまを、生きたいように生きるというような、そういうことを支えるという、いわゆるもう少し広い意味での自立ということもここに含め、多様性のある、多様な人々がいて、そこには障害者もいて、人工呼吸器をつけてる人もいてということで、この部分にそれを含んだつもりでやりました。

13番で、決して高齢化社会の問題だけではなくて、小さいときから、幼いときから、また思春期の問題も非常に多く、今摂食障害とかいろんな問題が出てきましたので、健康に関する事柄をすべてのライフゼネレーションにおいてできるということで考えておりました。

ですので、9と11、12、13あたりが私たちの健康・福祉の分野のプロジェクトかなというふうに考えながらおりました。ありがとうございました。

○河合委員 入るところとしてはそこらに入るんだろかなと思うんですけども、表現の問題として、やっぱりお互いが助け合うというような、そういうことがこういうところに視点として入ることが必要なというような気がするんです。

○佐藤会長 今出された河合さんの御意見なども、含み込んだ形でさらに検討していただきたいと思います。

○松平委員 今日は、戦略プロジェクトのほうなんですけど、基本計画の健康福祉の分野には「支え合う」ということを入れており、非常に重要な視点だということは十分認識しております。ありがとうございます。

○佐藤会長 今の松平さんのお話を聞きますと、13項目になるのもやむを得ないかなとも思いますが、これらを絞り込むというのはやはり難しいのでしょうかね。

○松浦委員代理（赤堀） そうなると部門計画のメインに、見本になってる、目次になっちゃうんですね。できれば部門計画がそのあとにどっさりありますんで、その中でこの5年間で小嶋市政としてどういうものを重点的に、これとこれとこれは絶対やりたいんだということが出てこないとか、福祉部は出ているとか、建設部は出ていないとか、経済部が少ないとかね、そういう話になっちゃうから、そういう問題じゃなくて、もうちょっと絞り込んでいいと言ったものですから、よろしくをお願いします。

○佐藤会長 そういう意味では、選択のメリ張りをつけることはやはり大切なので、そこはぜひよろしくをお願いします。

○上利委員 何か同じような話で、せっかく次へということなんで申しわけないんですが、戦略プロジェクトということの意味がよくわかんないんですね。戦略プロジェクトというのはさっきから言ってるように総花的なという話ではなくて、重点化をするという意味で使われているはず。これがどういう意味で言われているのかわからない。だから前回いただいたいろいろな表があったんですけども、何でもやりますという話ではなくて、これにポイントを置いてやりますということをやるのが戦略プロジェクトじゃないのか。きょうお示しいただいた戦略プロジェクト、今ちょっとよくわからないので御説明いただければというふうに思うんですが。

それと連関して、時代の潮流というのがあって、時代の潮流から戦略プロジェクトができるように見受けられるんですけどね。確かに2ページ目にはそういうふう書いてあって、矢印がいっぱい引いてある。そう見えるんだけど、そういう潮流があるから戦略を組み込むときに潮流の核が9個あって、プロジェクトが13個ある。こういう絞り出し方はないんじゃないかというふうに思うんですね。こういう9つの潮流の中から絞り込んで戦略はこれとこれというふうに絞っていくんじゃないかと思うんですけども、だから戦略プロジェクトの持つ意味と、絞り込み方が、潮流のほうからいったのかどうか、ちょっと何かそこにクエスチョンが感じられるので御説明いただければと思うんですけども。

○日詰委員 恐らく基本的な考え方としましては、時代の潮流、そしてそこでさまざまな諸課題があるわけですから、その諸課題を解決するためのいろんな戦略を掲げていくという流れになるわけですから、むしろその諸課題を解決するためにはもう少し、先ほど五十嵐さんの議論にもありましたけれども、束ねるような形で、くくるような形で出していくのも1つのやり方だろうというように思います。

今回私たちがとりましたのは、とりあえずこれは原案でありますので、もちろんこれで確定してるわけではなくて、そういうくり方もあろうかと思うんですけど、もう少し実質的に解決していかなければならない課題が9つあるということで、これに対して考えられるような戦略としてどういうものがあるのかということで絞り込みをしてみたところなわけです。ですから上利さんおっしゃるように、9つあるのが13に広がるということがちょっと戦略としてあり得ないんじゃないかということだろうと思うんですけども、特に静岡を、サブテーマであるところの世界に輝く『静岡』を創造していくといったときに、こういった形の戦略の取り方も1つとしてはあり得るんじゃないかということで議論してきたわけですけど、まだ検討余地がありますから、いろいろと皆さんの御意見を聞いてやっていきたいと思っておりますけれども。

○佐藤会長 川口さん、御意見あれば伺いたいと思っております。

○川口委員 今の議論はやはり専門委員会でも出ましたが、1次総のときにもスタートアッププロジェクトというものがありました。そのスタートアッププロジェクトが、政令指定都市としての基盤を整えるためにも早急にやらなきゃいけないものと、長期的視点を持って重点的にやらなきゃいけないものになっていて、おおむね目標達成できたものについては組み替えて、新しいステップアップの内容に変えていくといった手法、考え方で重点プロジェクトを挙げていっている経過を持つもの。当初よりそういうものが入っていましたけれども、まだまだそれを続けなければいけないだろうというものもそれは継承されている。中身を見まして、これとこれは合わせてや

はり戦略的にやっていったほうがいいのではないかということを経り込んでいったものもある。

そういうような1次総のときのスタートアッププロジェクトの関係の中からもこの戦略プロジェクトを組み立ててきている関係で、完全に時代の潮流にそのままリンクして戦略プロジェクトがあるという形では、なかなか整理がし切れない。けれども継承すべき事項については継承していく。前期計画としての1次総、その継承としての2次総という位置づけをしまして、そういった内容のプロジェクトと、新しい潮流の中で必要となるプロジェクト、そしてステップアップとしてやっていくものという形の中でこの13といものが出てきているということがあるかと思えます。

例えば、都市基盤の部分に関して申し上げます、都市の顔としての3つの顔と、トライアングルシティプロジェクトというところが前期の1次総のところにあつたんですけれども、これは方向性が大きく変わってきてまして、2つの核と1つの副都心、そして地域拠点としての安倍川駅の周辺ですとか、駿河区役所周辺ですとかということと、それプラスして生活拠点としてのJR各駅を中心とした生活拠点としている都市構造のイメージの転換がございますので、それをやはり人口減少社会という非常に大きな変化の中ですので、そういうものを視野に入れますと、集約型都市構造ということイメージした中でトライアングルシティプロジェクトをネットワークシティプロジェクトという形の中で転換してきているということがあります。

そういう意味で言うとなかなか、各分野で重点を置いておきたい部分として持ち出してきているものありますし、継承してやっていきたい部分もありますし、横断的に今やらなきゃいけない、例えば低炭素都市創造プロジェクトだとか、相当広い範囲のもの、先生おっしゃると思いますけれども、新しいものとしてできてきているものもありますので、そういった経過の中で13に今来ているというところです。お話を伺って、多分これから、日詰先生もおっしゃったように、内容をもう一度詰めて、整理できるのであればしていくという作業を進めていただくことになるのかなというふうに思っています。

○佐藤会長 ありがとうございます。

○上利委員 誤解があるといけないので、私が申し上げたのは数が多いということもそうですけど、多分このプロジェクトに書いてある内容が、これまで言われてることとあまり変わってないじゃないかという、申しわけないんですけども、どこの町でも言われてるような話ではないだろうか。そういうことなんですね。だから戦略的なプロジェクトである以上は、何かもっと具体的なプログラムを持って、計画であるとか実施団体であるとか、そういうことをもっと明確にしておくものではないか。こういうふうに思います。

それから、この13の中で、実は私が一番関心があるというか、これはちょっと新しいなと思ったのは、今おっしゃった10番のネットワークシティですか、静岡市の問題というのはやっぱり中心に集約されてることで、それをどういうふうにするエリアを完成させるかという非常に重要なことだということにかねてから思ってたんで、それがある。これは私は戦略プロジェクトとして意味はあるんだろうなというふうに思っていました。

○佐藤会長 何か関連して水谷さん、御発言ありますか？

○水谷委員 戦略プロジェクトの件なんですけど、戦略プロジェクトはおっしゃるとおりですね。戦略という言葉で皆さんがイメージするものというのは、多分、共通認識があると思います。それとプロジェクト群の13を見て、どうも合わないのではないかと、それは専門委員会議の中でも議論がありました。だからそれはある意味ネーミングの問題で、戦略プロジェクトじゃなければ、皆さん名称と名前が一致して、理論一環するかもしれません。もしも戦略プロジェクトとするんだったら、本当に本来の意味ですね、戦略プロジェクトとしてどこに重点を置いているのか、場合によっては上利さんおっしゃるように、非常に具体的なプログラムまで欲しいよということになるかもしれない。

だから戦略プロジェクト、ネーミングの問題と、戦略プロジェクトという名前で総合計画でどういう内容のものを書くかということは非常に高次の決定なんです。我々専門委員会議としてはその高次の決定なところまではなかなかいかなくて、一般的に戦略プロジェクトというところとは違うものを想像しますよとか、あるいは内容的に違うものじゃないですかという御意見は言ってきましたけれども、そのとおりに今のままで進むのか、あるいはどこか修正するのかというのは、専門委員レベルではなかなか決められないことなので、ぜひとも皆様の御意見を聞いて、それでまた決定をなされるべき人が、決定していただきたいなというふうに思っています。以上です。

○佐藤会長 わかりました。あといかがでしょうか。先ほどネットワークの話が出たんですが、例えば蒲原の須藤さん、あるいは清水の澤野さん、何か関連して御意見ございますでしょうか。

○須藤委員 合併して3年ということで、まだ静岡市のほうへ参入して期日が非常に短いので、やはり端だということで置いていかれるんじゃないかと色々あるわけですね、実際に。そういう中で地域審議会というのを設けている。今、いろいろと蒲原の要望とかいろいろ出しているわけですが、やはりそういう意味ではしっかりとそういうネットワークをつくってもらって、そういうところからの情報をしっかりと受け止めてもらいたいというのが私の考えです。

○佐藤会長 澤野さん、いかがですか。

○澤野委員 このままでやはり新東名高速道、中部横断自動車道の整備による高速交通ネットワークの連携。確かにこれ、平成29年には新東名、また中部横断自動車道も完成するという中で、やはりこれは静岡市内に道路があるということで、この周辺の開発等がどうなるのかという、この10番と3番ですか。この辺が盛り込まれているのかなというふうなことを感じるんですけども、具体的にこの周辺の整備、どうするのか。また、その活用によってはストロー現象といいますか、山梨、長野のほうに産業を持っていかれてしまうというような危機感もありますし、また観光の面でもやはりストローのように持っていかれてしまうというようなことがあるのではないかと考えますので、この辺の3番と10番の部分について具体的にどう考えるのかなということをちょっと感じました。以上です。

○佐藤会長 あと、いかがでしょうか。岩邊さん、ネットワークの一環ということでいかがでしょうか。

○岩邊委員 由比の場合には合併してまだ間もないということもありますけれども、私、今、ここに参画しているのは、NPOを由比でもって非常にいいスタイルで立ち上げようと言って立ち上げたNPOの代表としてここに参画をさせていただいております。それで実はこのプロジェクトの内容、いろいろ見た中では、私ども、いろんなところに関連をしていて、ここも私どもの分野だとか、ここも私どもの、例えばまちぐるみ協働プロジェクトとか、山間地活性化プロジェクト、あるいは市民の安心・安全。そういう部分について、非常に関心があるんですよ。今、蒲原の須藤さんもお話があったように、蒲原の場合には地域審議会というのがあって、地域審議会開会の中でいろんな議論がされるんですけども、なかなか由比の場合にはそこまでいっていません。静岡と合併して市民が静岡の一員になったということなんですけれども、なかなかその辺の、まだ静岡との整合性というのがとれていないというのが非常に残念な結果になっています。

○佐藤会長 わかりました。そういう意味でも総合計画に対する期待が、大きいんだろうと思うんですよ。あといかがでしょうか。佐藤さん、どうぞ。

○佐藤京子委員 私は市民活動、しみず女性の会という会に入っております、いろいろな市民活動なんかの部分にこの間、ずっと参加させていただいているんですけど、そういった立場から言わせていただきますと、余り世界に向かってという「世界」がわからないんですけども、私たちの市民生活でどうだろうかという点でこの戦略プロジェクトというんですか、そうしたものを見させていただきますと、特に1番とか2番、3番、4番、それから9番ですか。それから11番、12番、13番。あと10番を踏まえまして、とても市民生活にとって今、大切な部分がかなり盛り込まれているな。ただこれは、何と言うんでしょう。短くこうバンと出されているので、具

体的にこの内容をいろいろ出してもう少し詰めて、いろんな、それをもとにやっていけばとてもすばらしいものが出てくるんじゃないかなと、とても期待しているんです。

先ほど、これはどこでもやっていることで、別に目新しいことじゃないという御意見がありましたけれども、確かに言われてはいるけれども、じゃ実際にそれがどこまで到達しているのかというと、それはまだまだされていない部分があって、これから、これ、このところに力を入れて地域で市民がいろんな活動をやっていくことによって、静岡の美しい自然環境ですか、そういったものとか、それから人たちのいろんな活力みたいなものがむしろ伸びていく。そしてそれが静岡市の力であり、プラスになっていけるんじゃないかなあと、私は市民活動という部分から言わせていただくと、思うんです。ただし、私たちは経済的な部分がなかなかわからないものですから、という意味で、市民活動からすれば、とてもいいプロジェクトになっているんじゃないかなと思います。

それからネットワークのところの御指摘があったのは、施設の利便性向上ということは、私たち生活していてもものすごく不便なんです、静岡は。例えば私、清水に住んでおまして、例えば清水の人たちが、一番の問題は病院問題ね。静岡に来るときに一日がかりで、公的な交通機関というのがものすごく遅れているんじゃないかなと思うんですね。だから、どうしても車を持たざるを得ない。で、車で移動しなければならない。そうすると、ますます二酸化炭素の問題ね。環境汚染の問題につながっていくので、その辺のところをもう少し早いうちに、これは都心、副都心ばかりじゃなくて、静岡市全体。特に山間地のほうの部分の交通の利便性が遅れていると思うので、その辺も含めて、大分大がかりな改善をやっていただければ、市民生活にとってもとてもありがたいんじゃないかなと思います。

○佐藤会長 ありがとうございます。赤堀さん、何か。

○松浦委員代理（赤堀） 先ほど来から出ている、重点がぼけているというふうな、ちょっとお話もあったかと思うんですが、確かにいろんな方の意見を聞くと、市民の方、それから各界の方とか、いろいろな方の意見を聞くと、どうしても全体を納得させるためにどうしてもぼけちゃうような観点が出てくるのはある程度やむを得ない。聞くことは非常にいいことだと思うんですが。それと同時に、例えば行政なり、トップの方がこうやりたいんだというような強い意思といいますかね。そういったものがある程度、この戦略ポイントの中に現れているともう少し、めり張りが効いたものになるのではないかなというような感じがします。

○佐藤会長 どうもありがとうございます。できるだけ皆さんの御意見を伺いたいと思いますので、榎本さん何か。

○榎本委員 きょうは2回目の会合で初めて出席しましたので、なかなか皆さんに追いつけないのでございますけれども、既に資料をいただいたときに読ませていただきました。その中で、1次と違って変わったなと思ったのは、やはり環境問題がかなり入ってきたという点だと思います。先日、市の職員の方に、環境局というのはいつ頃できたのかというようなことを聞きましたら、平成19年にできたそうございまして、そこら辺から非常に環境に対する取り組みが真剣になっているな。こんなふうに感じました。

そういうところで、私も農業という立場の中で、特にここの戦略プロジェクトの中で関係するところは、特に今、問題になっている中山間地の活性化、あるいは低炭素等の都市づくり、ここら辺が非常に関係してくるわけでございますけれども、特に今、言われていることは、グローバルに考えると、やはり産業革命をして高度経済が成長したことによって今の地球の環境危機が生まれたと。こういうところがあるわけございまして、先ほど専門委員のほうの御説明の中にもありましたように、経済成長、このままでいいのかどうかというところで、いろいろ進んできているという話も聞いています。そういうことで、やはり経済成長を続けていって、最終的に人が住めなくなったらどうするんだという問題が将来的にあるよと。だから、そのところはもう今の喫緊の課題ではないけれども、明日のエコでは遅すぎるというような感じがね、真綿で絞められているような状況が続くということでございまして、これからは先取りをしながら、エコの問題は大変重要な問題かな。こんなふうに感じております。

それで、その中でいろいろ考えますと、やはりいろんな高速道路、あるいは空港、そういう社会インフラの整備はできてきたわけでございますけれども、私も今度の新東名のインターのところにありますのでよくわかりますけれども、そのことによって安倍奥の企業誘致という問題は余りしたくないというような、私自身はそういう気持ちでいます。それはなぜかというと、やはり今のこの静岡の本当に大事な資源、これは飲料水だと思っています。世界的に見て地下に自分の飲み水があるなんていう環境のあるところは余りない。そのところを、大事にしていかなければいけないということで、やはり企業誘致することによってその安心・安全の水が損なわれるリスクもあるわけございまして、中山間地を活性化するためには、そこらの問題もとらえながら開発しなくてはいけないという問題があるんじゃないか、こんなふうに思っています。

そういうことで、余りまとまった話はできませんけれども、環境問題というのは非常にこれからのキーワードじゃないかな。こんなふうにいるわけで、そこでごみの減量とか、最近、市も取り組んでまいりました、ああいうスーパーマーケットのレジ袋の廃止とか、そういう問題にもつながってくるということになりますので、今、実際、ごみは捨てればいい、燃せばいいと

いう時代は段々変わってくるんじゃないかな。このように思っていて、そんなことで行政にも率先してそういう問題をこういう総合計画に取り入れてもらって取り組んでいただく必要があるのかな。こんなように思います。

○佐藤会長 どうもありがとうございました。今、榎本さんのお話でも環境問題が重要だという話がありましたが、服部さん、いかがですか。

○小野寺委員（服部） 環境一つとっても、やはりかなり横断的にダブって、いろいろなところに施策が入っていると思います。

2 ページ目の想定する所管局を見させていただいて、局が一緒になってやるということを想定されてるということだと思うんですが、先ほどの水谷さんのお話のように、戦略プロジェクトというふうに御提案いただきますと、じゃ、プロジェクトチームができて、部局をまたいでプロジェクトで進行していくのかなというふうに理解してしまいます。でも、そういうことではないですよ。

1 次総のときにもやはり同じようなプロジェクトがありましたが、決してプロジェクトチームで進んでいったのではなかったと思います。そうしますと、やはりこの戦略プロジェクトから受けるイメージは、一般市民がそう思うのと少し差異というんですか、違ってくるのかなという気がしています。

○佐藤会長 よろしいですか。どうもありがとうございました。

そろそろ時間も詰まってきております。今日の会議でも、委員の皆さんそれぞれの観点から貴重な御意見をいただきました。それらを受けて、どなたの発言に対してということではありませんが、全体として日詰さんのほうから何かありましたらお願いします。ただ1つ、私のほうから、2枚目の例えば箱の、一番右端のところに「成果指標の例」というのがありますよね。これは言葉としてはわかりますが、これから議論を詰めていく中で、それを具体的にイメージできる、例えば数値目標のようなものを入れ込んで、次回のときにでもお話いただければ、さらに理解も深まるのではないかと思います。その点も御留意いただきながら、この先の作業よろしくお願ひしたいと思います。

○日詰委員 きょうは委員の皆様からいろいろな御意見をいただきまして、大変ありがとうございました。課題といたしましては、この戦略プロジェクトの内容につきまして御意見をいただくということでしたので、私どものほうでまたもう一度、時間をいただきまして、専門委員の皆様と検討を進めたいというふうに思いますし、また、この形で、このあとも御説明あると思うんですけれども、タウンミーティングを開かしていただく。そして地域の皆様の御意見を伺った上で、

またちょっと見直しをしていきたいと思っています。

今、佐藤先生のおっしゃった成果指標のところなんですけれども、これはあくまでも例という形で挙げてあります。成果指標という形はアウトカムの指標になるか、あるいはアウトプットの指標になるか、ちょっとその辺のところはわかりません。すべてがアウトカムということは、なかなか難しいというふうに思いますので、アウトカムとアウトプットが組み合わされた形の指標にならざるを得ないと思うんですけれども、もし戦略プロジェクトの形としてどのような結果が指標という形で出せそうなのか、その数値目標をなかなか出せないところもあるんですけれども、今の時点、もし検討できるところがありましたら、検討していきたいと思っています。

○佐藤会長 わかりました。

全体として、皆さんのざっとした感想として、13本のプロジェクトはやや散漫じゃないかという意見がありました。そこらあたりを絞り込んだ形で、この先の議論をしていただいたほうがいいのではないかというように思います。戦略と言う以上はかなり焦点を絞った形で、これで行くんだという方向性がクリアになるような工夫をしていただけたらと思います。そういう意味で、重点課題を鮮明にするという意識で、この先の議論を詰めていただければと思います。

そろそろこの第1議題、この辺で終わりたいと思いますが、先ほど委員の中から、この中で市長は何を一番やりたいと思っているのかという発言がありました。これはマニフェストの問題でもある意味関係することかと思いますが、今、ひととおり委員の皆さんのお話を聞いて、何でも結構ですけど、感想みたいなことでもいかがでしょうか。

○市長 様々な御意見ありがとうございます。1次総に関しては、ほぼ90%以上の事業を達成してきたわけです。これもまた見ていただきたいんですが、1次総もかなり多くの事業をやってきました。例えば、小中学校の校舎・体育館の耐震化は今年度で全部終わります。ごみの焼却施設とか、とくに道路は切りがないくらいあります。そういうものを経て、今度、2次総で引き継いでやっていかなきゃいけない。既に取り組んでいるものも随分あります。そういった中でさらに進化をさせて取り組んでいかなきゃいけないものや、逆に広がってきたものもあるし、いろいろです。

僕は、総合計画策定は4回目になるんですけれども、早い段階ではできるだけ話したくないんです。先に僕が言っちゃうと、議論がそこで終わっちゃうんですよ。（笑）

ですから、本当に重要な計画のことですから、いろんな多方面の市民の皆さんに議論していただいて、市民による市民のための市民の計画ということにしたいですね。もちろん、私は選挙で選ばれたわけですから、自分の政策的な目標とか、そういうものを持って、またそれぞれの地域

の問題も生じていて、そういうものに対処してやっていくわけですが、その意味で幅広く市民の皆さんが考えて出したことと調和をとりながら、政策を進めようとしています。

この総合計画策定のための組織を立ち上げて、様々な意見がある程度出てくるまではかなり長い時間がかかります。ただ最終的に一番重要なのは実は実施計画です。これももう既に我々の中で、もう今年の暮れあたりにはある程度はつきりさせなきゃいけないです。今後5年間で年次もいつまでに幾らぐらいかけてかけてやらなきゃいけないかというようなものも、活性化もそうです。それとか、今、大きな事業では草薙駅と安倍川駅の改修も、これらも今度の総合計画の間にはもう終わらなきゃいけない。ずっと準備してきてまとめていますが、そういったものを見ながら、全体の財政計画にはまるだろうとかですか、今、作業を進めているところです。

とにかくきょう、専門委員の皆さんから出していただいたこの案、そして皆さんの御意見、またタウンミーティングでもいろいろな御意見が出るかと思いますが、そういうものを斟酌していきます。市の行政というのはまさに総合行政なんです。福祉や、商工・雇用の問題などすべてかかわってくるのが市の行政ですから、まずはミスなく、落ち度なく、やるべきところをやっていないというようなことにはいけないということが、基本的にはあります。静岡市民の生活に直結することです。それと全体を見ながら重点的にどういうふう実践していくか。そういうことなんかも検討しています。

総合計画をつくる時には、今ぐらいが一番難しいと思います。5年に一遍ぐらいはしっかりと議論をしてくというのが、行政をやっていく上で大事なことでございます。よろしく願います。

○佐藤会長 ありがとうございます。

懇話会ですから、委員の皆さんにはぜひ今後ともいろいろ御発言いただき、市長にも皆さんの声に耳を傾けていただいて、これからの行政の糧となるようお願いしたいところでございます。

ということで、もし特に第1の議題について御意見の御発言がなければ、2番目の議題に移らせていただきます。よろしいでしょうか。

それでは2番目にありますように、タウンミーティングの開催についてですが、資料2ということで、事務局のほうから願います。

○経営企画課長 これにつきましては事務局のほうから説明させていただきます。

まずきょう配布した資料でございますが、これ、内部印刷のため、ちょっと見にくい点があるかと思いますが、それをまずお詫びします。タウンミーティング当日はもっときれいな印刷物を配布させていただく予定であります。

そのタウンミーティングですが、まず日程から説明させていただきます。7月5日の日曜日からスタートします。日曜日の午前中、10時からには北部生涯学習センター、午後の14時からには南部生涯学習センターで行います。10日の金曜日は夕方ですね。19時から21時まで長田生涯学習センターで行います。7月の11日の土曜日は午前中が10時から蒲原保健福祉センター、午後の14時からには清水ふれあいホールで行います。16日の木曜日。最終日ですが、19時から葵区生涯学習センターで開催します。

この開催の方法でございますが、専門委員の先生方が中心となりまして内容の説明、あと市民の方々と意見交換をしていただきます。そのほかに30名の市民委員がありますが、この市民委員の方々も出席していただく。そういう形式でやっていきたいと思っております。司会もその市民委員の代表の方にとこのような形でございます。

当日配布する資料の中身でございますが、簡単な説明をさせていただきます。

2ページ、3ページは総合計画の概要ということで、計画の構成と期間、人口フレーム、これが前回説明した内容です。人口フレームと土地利用計画というのに触れまして、次の4ページ、5ページは、きょう日詰委員より説明していただきました戦略プロジェクトですね。これがございます。

6ページ、7ページ。ここからは各分野ごとの政策体系図と、その分野で想定される主な事業を挙げてあります。例えば6ページ、7ページは総論部分の中の「市民ともに高めていくことが必要な意識」という分野でございますが、そこでは想定される主な事業として、静岡版もつけない運動推進ほか、このような形で載せてあります。以下、それぞれ各分野ごと、想定される事業を体系とともに載せてございます。

最後のところでございますが、区別の計画ということで、今現在、各区ではプロジェクトチームを立ち上げまして検討しています。その途中の経過をまとめたものでございまして、現状、目指すべき姿を各区ごとに記載してあります。最後は策定経過というような資料でもって御意見をいただくということでございます。

なお本日、戦略プロジェクトにつきましても各委員の皆様方からさまざまな意見をちょうだいしましたが、タウンミーティングにおいては、きょうの内容の戦略プロジェクトで市民の皆さんに説明して御意見を聞くということでございます。それらの意見を聞いて、これを最終的な戦略プロジェクトにまとめるというような作業になろうかと思えます。

6回、タウンミーティングが開かれますので、委員の皆様におかれましても、お近くの会場にぜひ足を運んでいただきたいと、このように思っております。

説明は以上でございます。

○佐藤会長 ありがとうございます。加藤さん、これについては、言ってもいいんですか。

○経営企画課長 はい。お手元にタウンミーティングの案内用のチラシを用意させていただきましたので、これもお知り合いの皆様にご配布いただければありがたいなど。よろしく願いいたします。

○佐藤会長 今、事務局からタウンミーティングについて説明していただいたんですが、何か御質問、御意見ございますでしょうか。

○松浦委員代理（赤堀） 今回、タウンミーティングでやる資料、市のホームページか何かにももう張りついているんでしょうか。

○経営企画課長 すみません。今、準備しているところで、きょうあす中にはアップするというところでございます。

○佐藤会長 いま気がついたんですが、市民に対する案内・広報はどのようにやっておられるんですか。

○経営企画課長 6月15日号の広報でやりましたし、報道の新聞にも。

○佐藤会長 わかりました。はい、上利さん。

○上利委員 広報のことでほぼ同じような内容ですが、今、これ、我々のところには大分あるんですけども、これをどういうふうに市民の方に配られて、我々が配るべき相手は誰なのか。重複するかもしれないし、ちょっとそこの確認をしたかったんですね。この、今、おっしゃっていただいたように、市民全体には配るといふか、通知はされるわけですよ。こういうのはだから区役所とか、いろいろなところに置かれるんでしょうか。そのあたり。

○経営企画課長 配布先でございますが、これはチラシでございますけれども、各図書館。それから市の情報板、各区役所にあるところ。あと区役所の総合案内のところで。あと生涯学習交流館。これ、全館。生涯学習センターも全館です。あと蒲原の保健福祉センター等でございます。そちらにはチラシでお持ちすることになっております。

○上利委員 ここの区民懇話会。区民懇話会の委員に配るのがかなり重要なというふうに思います。それは区のほうから連絡が行くとかということはありませんか？

○経営企画課長 すでに、うちのほうで手配しております。

○上利委員 お願いします。

○佐藤会長 あと、いかがでしょうか。やり方の問題でも、あるいは中身についてでも結構ですけども。これまで、いろいろなテーマでタウンミーティングをやられたと思うんですが、実際、

市民の皆さんの関心とか、雰囲気とかはどんな様子ですか。経験的なもので結構ですけども。

○**経営企画課長** 例えば自治基本条例なんかでも私、タウンミーティング、何年かやったんですけども、やはり集まりがなかなか悪いというんですか。会場が超満員になるということはなかなかありませんでした。でも、積極的にPRしまして、何とか来てもらうようにしたいなど。

○**佐藤会長** 今度の場合、第2次総合計画ということですけども、市民の日常な生活感覚からすれば、ぜひ来てみたいという気持ちにどうしたらなってもらえるのか、来させることができるのかです。そこは広報の問題でもあるし、市民へのアクセスの仕方の問題でもあると思うんです。難しいところですけどもね。

○**経営企画課長** ほかにパブリックコメントとかやっているんですが、なかなか浸透していないのが現実でございまして、それをいかにPRして来てもらうか。課題となっているところでございます。

このタウンミーティングのチラシは自治会とか町内会にも配布しますし、民生委員の方とか児童委員の会等にも配布します。その「広報しずおか」と役所のホームページ、新聞等で取り上げる形で、一応行政側としては精いっぱいPRしているつもりなんですけど、なかなかこれがたくさん集まってもらえないのが今の現実でございます。

○**佐竹副会長** 市民側からすると、総合計画、何ぞやということから始まるんですよ。

○**市長** 何回も言っているんですけどもね。この総合計画というのは大事なことだというのはわかるんだろうと思うんですが、佐藤さんおっしゃったように、最初から話をしないとなかなかいけない。ただ、これだけの大きな都市だもんですから、ある程度理解している人も多いんですよ。こういう行政のこういう計画はどうあるべきかとか、そういうことを言う人も結構多いところだから、専門委員や広報委員が一生懸命つくっていただいた、そういう気持ちというか、それが伝わるというかなという感じがしている。

やはり一般の市民は、このタウンミーティング資料の一番右側のところなんですよ。これは実は、これを書かないと恐らくタウンミーティングとしてはまともにならないかもしれない。ですから、ある程度今度の総合計画の中で、22年度から具体的に組み込まなきゃいけないものでも、前の計画の中で引き続いてやっているものなんかはできるだけ入れたほうがいいよというふうに言って。

例えば11ページの一番上から8行の急病センターの整備というのも、これもはっきりしたのがまだ21年度かな。20年度に正式に決めてあるんですけども、これももうタイムリミットを決めてやらなきゃいけないものなんです。これ、合併の流れの中で決めたことなんですけども、そういうことがこの中にこういうふうに入れて書いておきます。これが、この作業が一番

大変なんですけれどもね。ここを見ていただければ、こういう大施策、中施策の中で、こういう部分を取り組むんだなということを感じとしてわかっていただけるかなという。これ、今までは余り言わなかったんです。もうこの段階で出すわけですから、どんどん市民の方に理解してもらおうという考え方です。

○佐藤会長 先ほどの話ですけれども、市民の皆さんにできるだけ多く参加していただくということと言えば、市のサイドからいろんな情報を提供する、案内をするということは、それはそれで必要かと思うんですが、それだけじゃなくて、さっき上利さんから御発言がありましたように、区民懇話会のところでもそれに呼応する形で、区民の皆さんにタウンミーティングの御案内や呼びかけを、知恵を出してしていただければありがたいと思うんですけれども。その点よろしくお願ひしたいと思います。

○須藤委員 蒲原も非常に小さいところなんですけれども、やっていただけるということで非常にありがたいと思っているんです。ちょうど週末に地域審議会があるんですよ。自治会の会長さんが入っていたり、商工会の会長さんが来たりしていますので、7月8日の地域審議会で、11日にむけて要請していこうと思います。できるだけ多く参加するように。

○佐藤会長 せっかくこれだけのエネルギーをつぎ込んでつくっていただいたものですからね。タウンミーティングで多くの皆さんの御意見を聞くという、あるいは聞かせてもらえるように、皆さん、ぜひ手分けをして、呼びかけていただければと思います。

○杉山委員代理（五十嵐） 私の意見なんですけど、2、4、6カ所回って、何で蒲原だけこれだけ手厚いのかなというような感じなんですよ。（笑）いわゆる数が、回る数が割と少ないのかみたいな気がするんです。せっかく、ああいういろいろなことをやっていて、人が集まらないことのないようにすることが必要だと思うので、今回、この5日間を急に広げろと言ったって無理だと思いますが。

○佐藤会長 それは、ぜひよろしくお願ひします。何を言いたいのかクリアになるような表現というのがやはり一つの姿勢の問題だと思いますので。

○榎本委員 ちょっと確認できないところがあるものですから教えていただきたいんですけども、行政のところでは食育の基本計画を昨年ですか、つくって、そういう計画ができていますけれども、それに対する具体的な取り組みがちょっと盛り込まれていないんじゃないかなという感じがしますけれども、これは健康とか、あるいは医療とかという問題にかなり関係してくる問題でございますのでね。もし、どこかにそういうものが盛り込まれているなら、ちょっと教えていただきたいんですけども、いかがでしょうか。

○佐藤会長 いかがですか。私もそこは重要なポイントだと思うんですけども。

○経営企画課長 11ページぐらいですかね。11ページをお開きになってください。それ、健康福祉分野でございまして、11ページの中で中施策のところ、たくさんあって見にくいんですけど、下のほうから4段落目の4の食育の推進という形で中施策が掲げられていますので、今後、これに対応するような具体的な事務事業が実施計画の中に掲載するというような形になっています。

○佐藤会長 それに類するような質問なんですけども、ようやく消費者庁ができましたね。それに応じて、各自治体で、地域の消費生活相談センターなり、あるいは消費相談の体制を強化・充実しなきゃいけないということが、大きな課題になっていると思います。その辺のことは、いただいた資料の中ではどのあたりでしょうか。

○水谷委員 15ページのところで対応しています。

「快適でゆとりと信頼ある市民生活の確保」の筆頭に、消費生活の安全と向上。具体的な消費生活における安心・安全の確保。具体的な事業としては消費生活センターの機能の拡充です。

○市長 まあ、他の指定都市と比べても力を入れていますというか、もともとそういう伝統がある。

○佐藤会長 去年、静岡市主催で消費者月間のイベントとして、シンポジウムをやったという経過もありますので、ぜひそのところはきっちり取り組んでいく姿勢を、計画の中でも明確に盛り込んでいただければと思います。

あと、いかがでしょうか、何か。よろしければ、きょうは、主として2つの議題でしたけれども、それぞれ大変貴重な、中身の濃い御意見をいただきました。ぜひこれから、さらに議論を詰めていただく中で、反映していただきたいなと思います。よろしく願いいたします。

その他ですけれども、何か事務局のほうからございますか。

○経営企画課長 まず1点ですが、事前に配布させていただいてございます第1回目の会議録についてでございますが、御修正等がございましたら、この会議終了後に事務局のほうへ御提出をお願いいたします。

次の開催の日程でございますが、第3回の会議は平成21年の8月27日の木曜日、午前10時から12時ということでお願いいたします。会場は今後、ずっとこの8階の市長公室を使いますので、よろしく願いいたします。事務局からは以上でございます。

○佐藤会長 何か御質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。それではきょうの懇話会、これで終わらせていただきます。最後までどうもありがとうございました。御苦労さまでした。

○経営企画部長 それではこれもちまして第2回静岡市の総合計画懇話会を終了いたします。どうもありがとうございました。